

1年

「11 かぞくとおはなし」

(C 家族愛、家庭生活の充実)



ゾウ、サル、ペンギンなど、動物の家族の写真を見て、家族について考える教材です。私たちは、どうして動物の写真を見て、家族の愛情を感じ取ることができるのでしょうか。それは、動物たちの姿に、自分たち人間を重ね合わせているからです。子どもたちは、動物の子どもに自分を投影して、親に守られ愛されている感情を思い起こすのでしょうか。だから、動物たちがどんなお話をしているのか想像してみると、本当にいろいろ出てきます。「遊ぼうよ。」「お母さんのおなか、あったかいなあ。」「今日ね、こんなことがあったんだよ。」など、みんなで伝え合うだけで、クラス中がなんだかほんわかった温かい空気になっていきますよ。



尾崎先生

新版教科書

この教材に注目!

新版教科書では、漫画や写真、対話や話し合いを組み込んだものなど、バラエティに富んだ教材を用意し、子どもたちが自然に考えたいくなる教科書を目指しました。そんな教科書の中から、編集委員の尾崎正美先生と荒木寿友先生におすすめ教材を伺いました。

尾崎正美 ●おざき まさみ

岡山県瀬戸内市立国府小学校主幹教諭。公立小学校、岡山大学教育学部附属小学校教諭を経て現職。光村図書小学校「道徳」教科書編集委員。

荒木寿友 ●あらかき かつとも

立命館大学大学院教授(教育学、道徳教育)。主な著書に『いちばんわかりやすい道徳の授業づくり』(明治図書出版)など。光村図書小・中学校「道徳」教科書編集委員。



「9 どきどきしたけど」

(B 親切、思いやり)

「人に優しくできる自分でいたい。」2年生の子どもたちも、たいていそう思っています。しかし、相手から求められていないのに自分から親切にするのは、意外と勇気のいるものです。親切はいいことなのに、どきどきするなんておかしい気もしますが、きっとみんな初めての親切はどきどきしたものでしょう。そんな「どきどき」をクローズアップした教材です。人に親切にすると、どきどきするのは自分だけじゃないんだ。そんな気づきを授業でもてたら、子どもたちは、親切にすることへの勇気が高まっていくでしょうね。

2年



尾崎先生



ダニエル



セサル



マリオ



「17 三人の仕事」

(C 勤労、公共の精神)

3年

仕事とは、いろいろな立場の人の協力で成り立っています。この教材では、石橋を造る仕事に携わる三者の視点を取り上げました。ダニエルは、みんなのために働く人。セサルは、仕事の精度を高めることを追求している人。この二人の視点には、多くの子どもが気づくことができるでしょう。二人とも、石橋造りそのものに役立つスキルをもっている人だからです。マリオは違います。重い石も持てないし、設計図を考えることもできない。でも、働く人たちを支えることはできる。そういう働き方もあるのです。直接仕事に関わっているようには見えない人も、その人なりの関わり方で大事な役割を担っている。子どもの頃から、そういう働き方にも目を向けてほしいと思います。



尾崎先生

4年



「18 決めつけてないかな」

(C 公正、公平、社会正義)

人は、ついレッテルを貼って人を見てしまいがちです。この教材は、そんな日常生活にありそうなレッテルを3種類描いています。「親子だから……。」「転校生だから……。」「男の子だから……。」と決めつけることは、その人自身を見ようとしていないことになります。社会の多様化は、これからますます進みます。そんな社会では、一人一人を大切にみつめ、受け入れていく心が必要です。授業では、自分たちの生活の中で見られる決めつけについて話題にしてみるのもよいでしょう。ぜひ、先生自身も子どもたちと共に、自分の中にあるレッテルを見つめ、考える時間としてください。



尾崎先生

「13 世界人権宣言から学ぼう」

(C 規則の尊重)

世界人権宣言には、人間一人一人を大切にしていける理念が記されています。ところが、国連での採択から70年以上たった今になっても、世界人権宣言が目ざした世の中にはなっていません。この教材を読む中で、気に入った条文を探すのもいいですし、私たちの身近な生活と関連させながら人権に関わる問題を探し、なぜ人権が大切にされていないのかを考えるのもいいでしょう。なお、1948年12月10日に世界人権宣言が国連で採択されたことから、毎年12月10日は「人権デー」になっています。その日の前後に、この教材を扱ってもいいですね。また、6年生の社会科で憲法を扱う際に関連させることでも、学びがより深まります。



荒木先生



6年



「11 クジラとプラスチック」

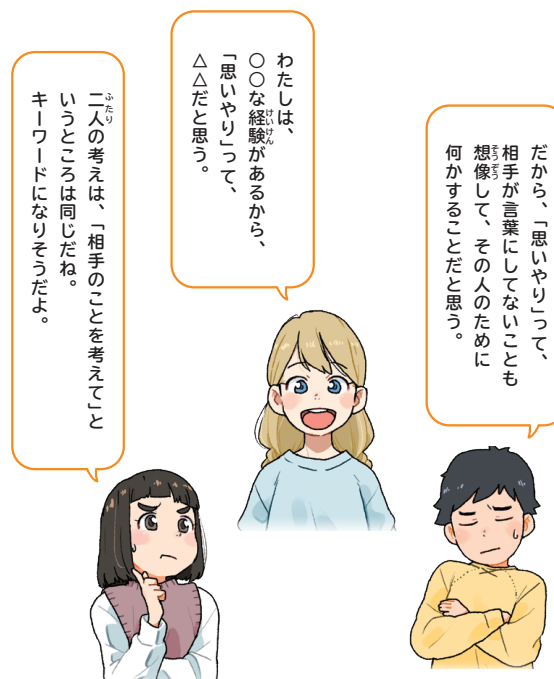
(D 自然愛護)

このクジラ、何でできているかわかりますか？「持続可能性」という言葉を耳にする機会が増えています。この教材は、人間の身勝手な生活スタイルが自然環境に大きな負荷をかけてしまっていることに目を向ける教材です。自然は大切だと単純化して考えるのではなく、自然環境を守ろうとする行動が、本当に自然環境のためになっているのかどうか、立ち止まって考えるきっかけになればと思います。「持続可能性」を考えると、そういうことです。例えば、二酸化炭素の排出量を下げするために電気自動車が販売されていますが、そのためのリチウムイオン電池の原料はどこからやってきているのか？ 総合的な学習の時間等でSDGsを扱う機会があれば、そこでの学びと関連させることも考えられます。



荒木先生

5年 6年



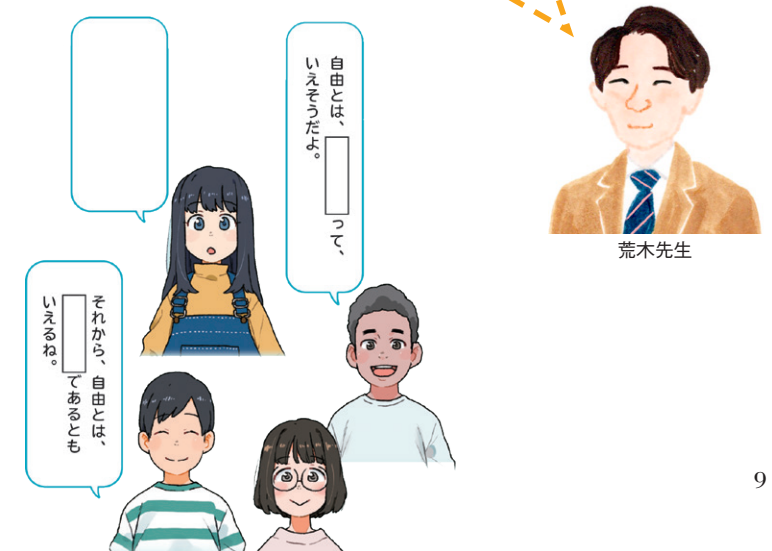
「31『思いやり』って、何だろう」

(B 親切、思いやり) 5年

「29『自由』って、何だろう」

(A 善悪の判断、自律、自由と責任) 6年

道徳科の授業の大きなねらいは、子どもたちの道徳的価値の理解を深めていくことです。多くの授業では、展開後段において、自分との関わりの中で道徳的価値を考えていきますが、これらの教材は、最初から「思いやり」や「自由」という価値について考えを深めていくところに大きな特徴があります。そして、子どもたちは単に意見の交流をするだけではなく、「少なくともこういうことは言えるよね。」と、「お互いに納得できること」を見いだすところも特徴の一つです。考え、議論する中で、話し合いの「着地点」を子どもたちが探究する授業こそ、まさに子どもたちの主体性を育んでいく授業になります。



荒木先生